

執筆規定

1. 異文化コミュニケーション、コミュニケーションを研究する方は自由に投稿できます。
2. 提出される論文、研究ノート、文献研究、実践報告等の内容及び文体は学術誌として相応しいもので、他誌に未掲載かつ掲載予定なしのものに限ります。
3. 投稿された原稿を掲載するか否かは編集委員会で判断します。また書き直しをお願いすることがあります。
4. 原稿は採否に関わらず原則としてお返ししません。
5. 原稿は原則として和文とします。
6. 論文原稿の長さは原則として400字詰め原稿用紙30枚分とします。ただし、研究ノート、文献研究、実践報告の場合は20枚分とします。長すぎる場合は書き直しをお願いすることがあります。
7. 原稿提出期限は8月31日とします。
8. 原稿には、200語程度の英文要旨とキーワード3～5語(日本語)を添えてください。
9. 原稿には英文タイトルをつけてください。
10. 注は本文中に付した番号の順に、本文の次に一括し、参考文献は、最初に和文文献(著者名五十音順)、次に欧文文献(著者名アルファベット順)に示してください。なお、体裁は、当紀要の「引用・参考文献表記法」を参照してください。
11. 原稿はできる限りE-mailでお送りください。ただし、E-mailをお持ちでない方はオリジナル原稿、フロッピー・ディスクとともにコピー3部を提出してください。
12. 校正は初稿に限り執筆者が行います。この際に加筆・訂正は必ず植字上の誤りに関するもののみとし、内容に関する加筆・訂正は認めません。また、再校以降は編集委員会に一任していただきます。
13. 抜刷は30部まで無料で進呈しますが、これを超過する部数については実費をいただきます。
14. 原稿に関するお問い合わせ、及び原稿の提出先は下記宛にお願いします。

神田外語大学
異文化コミュニケーション研究所
〒261-0014 千葉県美浜区若葉 1-4-1
Tel/Fax: (043)273-2324 (研究所直通)
E-mail: icci@kanda.kuis.ac.jp

引用・参考文献表記法

- (1) 和書単行本
和辻哲郎(1935)『風土』岩波書店、1頁。
- (2) 和書編著書に収録された論文
松本耿郎(1989)「言葉・存在・認識」黒田編『地域研究の方法と中東学』(111-113頁)三修社。
- (3) 和文論文
神山四郎(1989)「福沢諭吉の西洋理解」『異文化コミュニケーション研究』創刊号、20-21頁。
- (4) 翻訳書
ホール、エドワード・T著、國弘正雄訳(1966)『沈黙のことば』南雲堂。
- (5) 洋書単行本
Strunk, W., Jr., & White, E. B. (1979). *The elements of style* (3rd ed.). New York: Macmillan.
- (6) 洋書編著書に収録された論文
Gurman, A. S., & Kniskern, D. P. (1981). Family therapy outcome research: Knowns and unknowns. In A. S. Gurman & D. P. Kniskern (Eds.), *Handbook of family therapy* (pp. 742-775). New York: Brunner/Mazel.
- (7) 欧文論文
Paivio, A. (1975). Perceptual comparisons through the mind's eye. *Memory & Cognition*, 3, 635-647.
- (8) 著者・編者が複数の場合
坪井洋文・他(1986)『日本文化の深層を考える』日本エディタースクール出版部。
芳賀徹・他編(1987)『外国人による日本論の名著』中央公論社。
石井敏・他編著(1997)『異文化コミュニケーション・ハンドブック』有斐閣。

執筆者

- 石井 敏 (獨協大学教授、異文化コミュニケーション論)
Fernando POYATOS (ニューブランズウィック大学名誉教授、非言語コミュニケーション、文化分析と相互作用)
東山 安子 (明海大学助教授、非言語コミュニケーション)
瀬戸 千尋 (獨協大学大学院博士課程在学学生、異文化コミュニケーション論)
袴田 麻里 (岐阜大学留学生センター非常勤講師、日本語教育)
安福恵美子 (阪南大学助教授、社会学、ツーリズム論)
久米 昭元 (神田外語大学教授、異文化コミュニケーション論)
石井 米雄 (神田外語大学学長、異文化コミュニケーション研究所所長、東南アジア史)

Authors

- ISHII Satoshi (Professor, Dokkyo University, Intercultural Communication)
Fernando POYATOS (Emeritus Professor, University of New Brunswick, Nonverbal Communication, Cultural Analysis and Interaction)
TOHYAMA Yasuko (Associate Professor, Meikai University, Nonverbal Communication)
SETO Chihiro (Doctoral Program Student, Dokkyo University, Intercultural Communication)
HAKAMATA Mari (Lecturer, International Student Center Gifu University, Japanese Language Education)
YASUFUKU Emiko (Associate Professor, Hannan University, Sociology & Tourism)
KUME Teruyuki (Professor, Kanda University of International Studies, Intercultural Communication)
ISHII Yoneo (President, Kanda University of International Studies, Director, Intercultural Communication Institute, History of Southeast Asia)

編集委員会

- 石井 敏 (獨協大学教授)
石井 米雄 (神田外語大学学長、異文化コミュニケーション研究所所長)
上原 麻子 (広島大学大学院教授)
岡部 朗一 (南山大学教授)
久米 昭元 (神田外語大学教授)
高崎 望 (神田外語大学教授)
遠山 淳 (桃山学院大学教授)
中村 真 (宇都宮大学助教授)
平井 一弘 (大妻女子大学教授)
御堂岡 潔 (東京女子大学教授)

Editorial Board

- ISHII Satoshi (Professor, Dokkyo University)
ISHII Yoneo (President, Kanda University of International Studies, Director, Intercultural Communication Institute)
UEHARA Asako (Professor, Graduate School, Hiroshima University)
OKABE Roichi (Professor, Nanzan University)
KUME Teruyuki (Professor, Kanda University of International Studies)
TAKASAKI Nozomu (Professor, Kanda University of International Studies)
TOYAMA Jun (Professor, St. Andrew's University)
NAKAMURA Makoto (Associate Professor, Utsunomiya University)
HIRAI Kazuhiro (Professor, Otsuma Women's University)
MIDOOKA Kiyoshi (Professor, Tokyo Woman's University)

注記：神田外語大学異文化コミュニケーション研究所が発行する『異文化コミュニケーション研究』は1998年度(1999年3月発行)まで、学年度に合わせた年度表記をしていたが、本号より、年度表記は発行年に合わせて統一する。したがって、1999年度を省略し2000年とした。ただし、号数は前号(11号)を引き継ぐ。また、号数表記は算用数字に統一し、著者名(日本人、韓国人、中国人等)のローマ字表記は、姓名の順とした。

異文化コミュニケーション研究 第12号

2000年3月 発行

発行所 神田外語大学

異文化コミュニケーション研究所

〒261-0014 千葉県千葉市美浜区若葉 1-4-1

Tel/Fax. 043 (273) 2324 (研究所直通)

E-Mail. icci@kanda.kuis.ac.jp

印刷所 研究社印刷株式会社